

2022年春夏 | 第40号

# 龍 声

りゅうせい

龍樹會広報誌



## 今号の記事

- ・武道と教育について考える
- ・拳法式段合格者発表
- ・2022年玄孚祭開催は？

発行 国際古伝武道連盟 龍樹會

本部：兵庫県三田市あかしあ台3丁目3番地1号

[HP]<http://ryuushinkai.com> [E-mail][info@ryuushinkai.com](mailto:info@ryuushinkai.com)

# 2021 年度 拳法式段合格者

2022 年 3/21 (月・祝) 春分の日。田園スポーツ公園(神戸市北区)で少林寺流拳法式段検定を実施。

本来去年秋に実施される予定であったこの検定、コロナウイルスの影響でまん延防止対策により会場が使用不可となり、以後 2 回の延期を余儀なくされ、この日程となりました。制限が多い中、受験生はできる範囲で練習を重ねてきました。その内容はコロナ禍の不安や心配を感じさせない素晴らしい出来栄え。結果、見事 7 名の拳士が合格されました。合格した拳士の皆様、おめでとうございます！ (文：検定委員会)



(左奥から)仲 敬人・川島 彩登・時澤 遼翔・藤田 大輝・藤田 晃輔・山本 英志・北御門 光太郎  
(左前から)西田侃龍先生・橋本龍樹宗師・政岡晟龍先生

## コロナ禍、武道を考える

コロナウイルスが世界中に蔓延して多くを失った 2 年は徐々に元に戻りつつあります。組手大会や演武会が出来ず、生徒も運営者もはがゆい思いをしてきました。しかしこの期間は決して無駄ではなく、「武道の大会とは?」「武道(の修練)とは?」等の意味を一から考える事が出来ました。武道は指導者により格闘技にもスポーツにも変化します。指導者であっても未熟な一練習生。日頃の武術練習だけでなく、学ぶ事も忘れてはいけません。格闘技やスポーツ大会ではなく、武道の大会になるにはどうすればよいのか? 今後も課題はたくさんあります。

生徒側からすれば武道っぽい何かより武道を習いたいはずです。しかしながら安全性などが厳しく問われる現代、妥協する事も必要です。武道の目的は人格形成。殴って蹴って勝ち負けだけを重要視するスポーツ/格闘技にならないよう、宗家から受け継いだ精神を後世に伝えるべく当会は修練していきたいと思えます。

# 【特集】”武道と教育”

## 第一回 木原 岳龍(居合 三田道場長)

まずはじめに、私は教育者ではありません。単なる武道(居合道)好きの一人の人間であり、その伎倆もまだまだ未熟な修行者です。ですから、以下申し上げることは単なる個人の意見見解であり、私自身が聞き知った事や思っていることを文章にしているだけです。反対のお考えやご意見をお持ちの方々も多々おられる事と思いますが、あくまでも個人の見解ですのでご容赦ください。

「武」とは、 戈(ほこ)を止(とめる)と書いて「武」となるということをご承知の事と存じます。「戈」とは戦う為の道具であることは言うまでもありません。では、「止」とは「やめる」「とまる」という意味なのでしょう。否、「止」とは「歩む」「前に進む」という意味で足首全体の象形とのことであり、「武」とは「戈を持って(背負って)前に進む(歩む)」ということになるそうです。(参考/漢字学:白川静博士)「戈を背負って前へ進む」という事は、すなわち「戦うため(前に進むため)の覚悟を決める」ということになるそうです。誰も好き好んで戦いたくはないでしょう。しかし、いざその「戦」の時が来れば、躊躇すること無く守るべきものを守る為にも勇気をもって前に進むことができるように、日頃から修練しようというのが 武道という事なのだそうです。

(<http://www.kyudo.jp> より)

それでは、現代社会の生活において「戦」とはどういうことなのでしょう。国と国が争う「戦争・紛争」は悲しい事に個人の意思には関係なく発生してしまいます。ならば、個人の「戦」とはどういうことでしょうか。それは、我々個々人の様々な生活の場面(仕事・社会生活/勉強・学校生活/趣味・スポーツ等々)において、ここでは負けられない、ここは譲れない、このままでは終われない、ここは涙をのんで譲歩しようといった、謂わば何らかの選択を迫られる場面場面における心の葛藤が「戦」ということなのではないでしょうか。そして、その「戦」の場において、その人自身がしっかりとした意思 心(戦う覚悟)をもって臨むことができるように、日頃から心を鍛錬することが「武道」であると言えると思うのです。例えば、自分自身に置き換えて考えてみて下さい。学校生活において、いじめを見ればそれを「いじめはやめよう」と言う強い勇気(一歩前に出る勇気)はありますか? いじめを受けているクラスメイトに声をかけ、手を差し伸べる優しい心はありますか? 普段の生活において、悪い誘惑に負けない強い気持ち(踏みとどまる力)はありますか? もっと端的に言えば、すべきことをしっかりとやって、してはいけないことは断固としてしないという確固たる決意(意思)はありますか? こういった「心」を鍛える事こそ、我が国に古くから連綿と引き継がれてきた「武道」の真髄があるのではないのでしょうか。私は仕事柄、小学生の職場見学や中学生のトライやるウィークでの受入れ時に武道担当者として子供達と時間を過ごすことがあります。その度に「何故、武道をしているの?」という質問に対してそのように答えてきました。また、そう答える事により自分自身に、そうあるべきだと言いつけて聞かしているのです。簡単に言えば「心がダークサイドに堕ちないように、自身が闇堕ちしないように...。」と自分自身に言いつけて聞かしている訳です。無外流居合兵道の始祖である辻月丹資茂に関する書の中に、月丹が京都において剣術の修行中、その師である山口ト真齋に、修練して強くなるためには何が肝要かと尋ねたところ、師は「まずは励め。(怠らず続けよ)。理合を学べ。(技の基本を理解せよ)。そして何より、強くなってどうするのか?」ということをしつかりと考えよ。」と答えたとの記述がありました。これはまさに、基本は当然学びますが、基本が出来ていてもそれをどう活かすかを自分自身でしっかりと考えねば修練とは言えず、武道として成立しないという事なのです。自分自身が修練で何を徳たいのか? それを得る事で何をしたいのか? どうなりたいのか? を常に自問自答して修練してこそ、その人の「心」が鍛えられるのです。自分自身を律して生きることは並大抵のことではありません。自分自身を律する為の強い心を持つ為に日々の修練があり、その積み重ね、つまり一生涯が修練だと思ふのです。ですから、「武道」とは「人間形成教育の手段の一つ」であり、それは生涯を通じての人生教育であると思っています。最後に、以前会長が紹介されていた「五省(ごせい)」を掲載しておきます。

# 五省

- 一 至誠(しせい)に悖(もと)るなかりしか  
(自分の行いに、誠実、真心、人の道に背くことはなかったか?)
- 二 言行に恥づるなかりしか  
(自分の発言や行いに、過ちや反省すべきことはなかったか?)
- 三 氣力に欠くるなかりしか  
(何かを成し遂げようとする氣力、精神力は十分あったか?)
- 四 努力に憾(うら)みなかりしか  
(目的達成の為に、惜しみなく努力したか?)
- 五 不精に亘(わた)るなかりしか  
(怠けたり、面倒くさがったりしなかったか?)



創始者の松下元少将

賛否両論、ご意見は多々あろう事と存じますが、私個人的にはこの「五省」を日々心に想いながら修練する事が自身の心の鍛錬、すなわち、いざという時の心構え(覚悟)の形成につながるもので、これが「武道」を修練する上での基本姿勢であると思っております。

合掌

## 更新情報

- 当会のホームページがリニューアルされました。
- 2022年10月30日(日) 第30回玄孚祭(三田道場にて開催予定)

### ★今号の表紙



氏名：橋本 龍斟 はしもと りゅうしん

龍斟會 宗師

1945年生まれ

武歴：50年(boxing、不動禅少林寺拳法、無外流居合道、武術太極拳、龍氣拳、  
気功整体師)

趣味：(書画、楽器、料理、嵯峨御流華道、陶芸、ゴルフ、俳句)

一言：為せば成る為さねば成らぬ何事も…。

編集後記

### 【玄孚祭開催決定！】

延期になっていた玄孚祭の日程が発表されました。いまだコロナ前のような練習ができる状況ではない上、いつもより小規模にはなりますが久しぶりの龍斟會全体の行事です。日頃の練習の成果をしっかりと発表できるよう精進していきましょう。(今住)

